

modernism«  
critical regionalism  
» post modernism

2005.05.31

MORIMURA KAWAMURA SEMINAR  
MOTOJIMA Mizuki, TANAKA Shigehiro, KOBAYASHI Yoshihiro



2006 年度森村・川村ゼミグループ発表 レジューメ

2006/05/31 (wed)

“modernism<<批判的地域主義>>post modernism”

発表者 元島瑞貴、田中茂裕、小林由拓

## 1. はじめに

私たちは、前回までにモダニズムとポストモダニズム、それらの建築や都市構造、在り方、姿勢などを学んできた。その上で、今回私たちが提示するモダニズム、ポストモダニズムともまた差別化され得る、批判的地域主義とは一体どのようなものであり、どの点においてモダニズム、ポストモダニズムと違った主義と言えるのであろうか。そして、現代私たちが暮らす社会に在る建築に対してどれほど影響を与えているのであろうか。今回はそれを明らかにすると同時に、それらを踏まえた上で現代社会に生きる私たちは、建築をどのように見ることができるのかを考えていきたい。

## 2. 批判的地域主義

提唱者 ケネス・フランプトン (A・ツォニス、L・ルフェーブル)

著書 『近代建築』(未邦訳、1984)←後衛主義の視点が加わる

### ■批判的地域主義ができるまでの経緯

- ・ 反インターナショナル・スタイル(モダニズム)

→1930 年代ヨーロッパで地域主義というモダニズム批判の概念が生まれる。

「地域主義」

その地域固有の環境を生かしたその地域だけの建築 (古典主義的、懐古的、全体主義的)

ex)アルベルト・シュペーア [Albert Speer 1905-81、ドイツの建築家・軍需大臣]

- ・ 前衛主義→後衛主義

→解放的、進歩的な形で働いたアヴァンギャルド⇔ブルジョワ文化の肯定性

→1930 年代資本主義と社会主義の闘争⇒大衆の意識の変容、革命や経済不況⇒後衛主義

—フランプトンは上記のような普遍文明の発展に対する全体主義的な地域主義自体をも批判し光栄主義の概念も含めた批判的地域主義を唱える—

### ■批判的地域主義の概念と特色

- ・ 地域主義≠批判的地域主義

地域主義＝普遍的文明を批判・記号的、個別的な手段を用いる・

批判的地域主義＝地域主義の持つ概念を脱懐古的、脱全体主義的に捉える。

・ 土着性・地域性 ≠ 批判的地域主義

→ 批判的地域主義 = 地域性の再肯定、再解釈

・ 普遍的文明やテクノロジーと固有のものとの調和

→ 対立するものと見受けられうる普遍的文明のインパクトと、個別的な場所の特色から間接的に引き出されてくる諸要素とを和解させる。

・ 視覚性・触覚性などの経験による情報 ⇄ メディアに見られる技術による見せかけだけの情報

→ 環境を重視し、証明、温度、湿度、気流、素材などの知覚作用に対しての再喚起

→ 普遍的テクノロジーの“支配”(ex. 空調装置)への抵抗、脱構築

### 3. ランドスケープ・デザイン

#### ■ ランドスケープ

景観を構成する諸要素。ある土地における、資源、環境、歴史などの要素が構築する政治的、経済的、社会的シンボルや空間。または、そのシンボル群や空間が作る都市そのもの。しばしば風景、景観、造園と訳される。(Wikipedia)

<時代背景 1950年代～>

第二次世界大戦後、ヨーロッパでは、都市国家の痕跡が依然として残っていた

→ 反国家志向、地域主義への推進力が自然発生的に生じる

→ 多くの建築家たちが戦後に郷里の都市にあって固有の文化に貢献していく

#### ■ 批判的地域主義とランドスケープ・デザインとの関わり

a. マリオ・ボッタ(スイス 1943-)

「インター・コルシードの応用」→ 手作業によって形態を豊かにする

→ 地域の芸術ないしは批判的な潜在能力を濃密にしていく必要性

→ 1920～1930年代の進化過程を批判的に再評価するという挑戦を突きつける

作品1: ≪リヴァ・サン・ヴィターレの住宅≫ (1972-73)

→ 地方に栄えた伝統的な避暑用別荘を参照 農業的特性との調和

作品2: ≪チューリッヒ駅≫ (1978年)

→ 歴史的都市への非妥協 郊外開発の混乱からの回避

「敷地を築く」ということへの関心

「都市の中の都市」→ 都市の縮図化

b. 安藤忠雄(日本 1941-)

「自閉的な近代建築から普遍性へ」

開放的・普遍的近代建築 → 個人的生活様式、地域(閉ざされた領域)に当てはめる

「閉ざされた現代建築」へのアプローチ(ex:飛び地の存在)

→自然との親密性と自然界への開放

「建築によって自然の意味を変える時、人間は自然との新しい関係を見出す」

作品1:《小篠邸》(1981年)

→光から生ずる空間の静穏性 コンクリートの壁…幾何学的秩序<触覚性

作品2:《WATER TEMPLE》(1985-88)

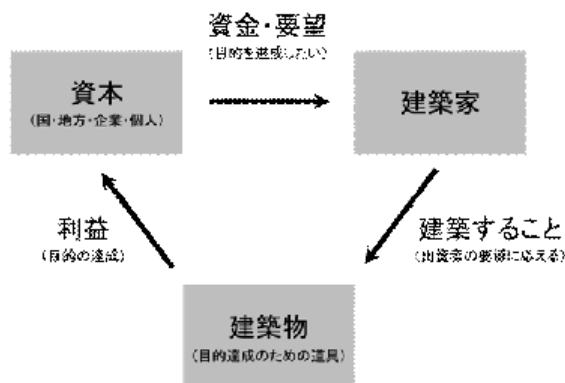
→「奥」という思想…敷地の重なり→周辺環境へ溶け込ませる

日本古来の「借景」の手法  
光や風のディティール化

<安藤忠雄の言説>

「こうした建築は、それが根付こうとする地域によって変わるだろうし、様々な個人個人の違いによって成長もするだろう。たとい囲い込まれても、その建築が、方法として普遍性に向かっていると私は確信しているのである。」

#### 4. 日本建築の批判的地域主義



資本主義における資本・建築家・建築物の関係図

誰か(使用者、出資者)のために建築する以上、その誰かの要望に応えざるをえない。

#### ■ 戦後日本の建築を取り巻く環境の変化

公共セクターにおける資金調達…政府と同様に地方自治体が援助

→ 《関西国際空港》 《幕張メッセ》 《東京国際フォーラム》 公共性と社会性

## ■ 日本建築家の新しい手法

### a. 篠原一男

国家による規範的様式、ネオ・コルビジェ風の設計、日本的伝統復活、の何れにも隔たりを保った。

作品: ≪百年記念館≫(1988年)

→「不協和な形態と自由に採用した既製資材の技術との併存」という手法

### b. 伊東豊雄

「ハイ・テク美学」

作品1: ≪シルヴァー・ハット≫(1984年)

→中庭をスペース・フレーム(立体骨組)で覆った家

→「ハイ・テクノロジー」と遊牧民の原始的テントへの参照

作品2: ≪せんだいメディアテーク≫(2001年)

→「自重を支える壁」が全くなく、「柱」のみによって自重が支えられており、「柱」によって建てられる旧来の日本家屋と建築思想が同じである

### c. 槇文彦

「群造形」

→「都市」という組織に組み込まれずに、個々の構成要素がダイナミックに平衡状態を保っている

作品1: ≪ワコール・メディア・センター スパイラル≫(1985年)

→立体主義風コラージュ

「細片化」

→装飾的統辞法から、構造的大胆さへ

作品2: ≪藤沢体育館≫(1984年)

→金属膜による多面体のシェル形式

作品3: ≪テピア≫(1990年)

→薄い金属膜によって包み込まれた簡素な直方体の空間

細片化の美学は、上の例に代表される2つの方法が相互に補完しあって、実現される。

### d. 安藤忠雄

「ランドスケープ・デザイン」を加味した作品

作品は前頁参照。

## 5.考察

1980年代から批判的地域主義という、建築の概念がフランク・ロイド・ライトらによって提唱され、現在まで様々な建築家によって継承されている。その地域独特のランドスケープを破壊することなく再解釈という形で、建築物を作り上げる一つの手法は、インターナショナル・スタイルを提唱するモダニズムや、多様性・相対性を主張するポストモダニズムとは類似しない、新しいものであった。それは、現代の場所志向的文化の育成に努めるものであった。現在そういった主義を考えたときに、その持つ機能は果たして私たちの生活や、都市にどれほど影響を与えているのだろうか。

現在、日本では凄まじい勢いで建築物が建てられ、消費されている。モダニズム、ポストモダニズムという様式や、建築家、ディスプレイ会社といった設計者の存在を超えて、都市にはそれらの建造物が雑然と立ち並んでいる。確かに、批判的地域主義の建築は、私たちの都市においてひとつのスタイルとして確立されつつあるが、現代社会においては、モダニズム、ポストモダニズム、そして批判的地域主義もが、資本主義の波に巻き込まれている可能性がある。

建築はアートとは異なり、土地の利権や資本に大きく左右される。美しい建築を学問として学ぶ一方で、私たちは建築が巷に溢れ、ポピュラーになっていく現象と、建築が消費の対象にされている現象を、その是非に関わらず同時に考えていかなければならないように思う。

### <参考文献・参考サイト>

- ・ ケネス・フランク・ロイド・ライト『現代建築史』青土社 2003
- ・ ハル・フォスター『反美学ーポストモダンの諸相』勁草書房 1987
- ・ 伊東 豊雄『透層する建築』青土社 2000
- ・ 伊東 豊雄『風の変様体』青土社 2000
- ・ 伊東 豊雄『GA アーキテクト 17』ADA エディタウキョウ 2001
- ・ Art scape [http://www.dnp.co.jp/artscape/reference/artwords/a\\_j/critic\\_regionalism.html](http://www.dnp.co.jp/artscape/reference/artwords/a_j/critic_regionalism.html)
- ・ アートシンクタンク通信 <http://blog.mag2.com/m/log/0000174341/106964155?page=1>
- ・ Wikipedia